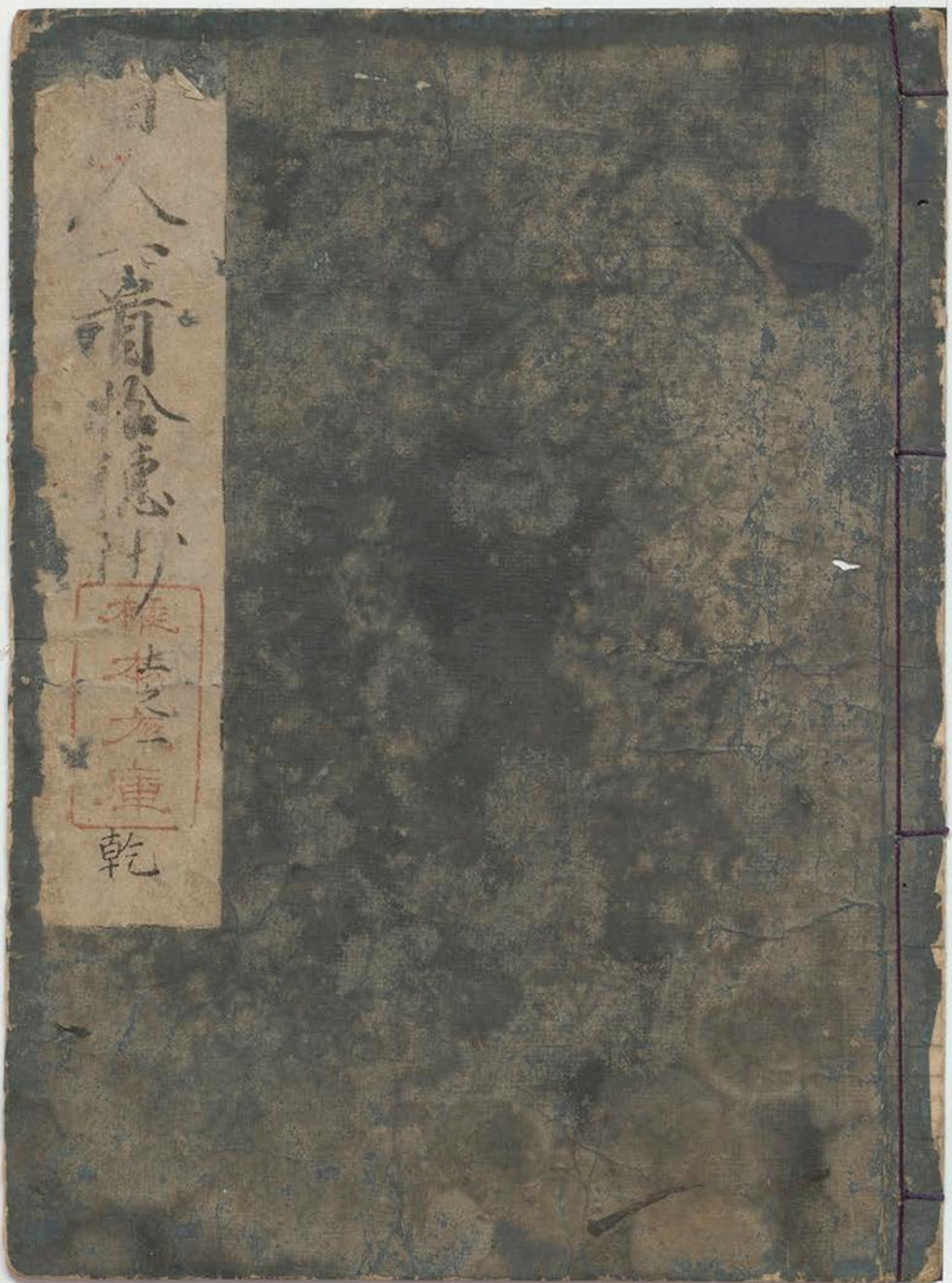




百人一首拾穂抄

相本支庫

李吟述

四百首の并ハ京極中納言小倉乃山荘の清乃乃色紙形
イハヒコトヲセリト也ハ中納言ハ御堂関白卿道長公より六
代乃清末より父兄ハ五系ニ後後成女君ハ兼御門院の
伯耆乃屑若狭守親連乃じよりころニ系院乃應保ニ三子
年より生れりいゝ姓乃名ハ光季中ノ方季光ハ改め
信ハ是家ハ子孫より被賜漢乃小倉よりありんれ
小倉漢門よりり清信ハ二傳りおしより民より。ふし
成よりハ古今集伊勢物語の奥書よりハ戸部尚書と
あり民より唐名をよみハ後河院乃貞永元年十二月より
出家よりいゝ法名ハ昭新とよみ止觀明靜前ミチノ茶阿の儀
より然又云後成ハ金吾基俊朝臣より相所桐水三治

て後書院乃清江流しありて中飛言を以て其の家風と
すけりといひける。古今和歌集乃神本と云ふには撰集を
勅許し古今集乃密勘を云ふ。一とく三代集乃僧家抄
といはる。伊勢物語にも本々今昔より用括し源氏物語に
も表紙のうへに大日記大和物語と云いどある。此等
ものに可用なるものはなりや中興とく、大抵よくに的り
ずりといひながらさして所りあり。古今は撰くを後にも
よからずく作らばなり。伊勢源氏の草子も是なり。かく
申してもなほさういふかゝるもの多し。世にさういふもの
が少くゆゑひとしや家集と松遺墨草といふ。此は侍従と兼
常とまゐる比よりや大進頼朝の法女也といふ。是れ亦書の
假名をいじりいひはるなり。やや彼墨後の眼目なり。

[illegible]

[illegible]

此記非尋

清製乃心帝通乃好要ふり
 衣思紡績煩毎用一食案稼稷功とのりつと賢王乃心
 くらつとくらつとや。万葉牙十。松雅詩詠露九箇中
 秋田刈儲菴とほくらわきとれが衣は定しあふと
 いふ清製はお似たり。新古今とて供人定し合は
 高あふ清製乃奥義也。蘇周乃馬あへ平氏乃
 傳戸とて父母乃喪乃時はくみわくとあへむ
 蘇周乃時父帝とてわく子よほきて傾菴を焼く
 くれしとて。蘇周とて。昔乃藤とて。白乃外
 を就くといひ。以白易月とて十二日傳戸
 十二ヶ月生あるへあふすなりと。十二日とて。めり
 それを日を以て月よかるといふ。めりて秋の田乃
 乃とて。やたれのみか。みあるとて。田家とて
 やりて。みあるとて。清製。春は乃を上下万葉

御歩古今之間云々。古今席云々古よりありて今も
 ありと云ふ事なり。此の時わづひる事なりと云ふべし世
 やありの所まう一やいさめあんがれは時なりと
 まうのりくくの柳なり人えんきなりなり
 是業にありけり。いと云はやくあれど定氣つて四尺拖
 ぎたてあるなり。おをよ文武といへり。いさなも文武
 と定む。古人預けたり。祇道云々ありき。この位はこゝに修
 清輔袋中子の人丸勸物云々。乃葉集人丸始自天武至
 武承也。亦云人丸。昔始於藤原御宇云々。輕皇子宿禰安騎野
 時抄本朝臣人唐作歌一首。乃葉集。輕皇子文武名也持統之
 代云云。作者部類云。乃仙都人丸。奇乃葉雖揭大空無屢雲
 以後之年号又雖等文武之御代不举元明以後之御代也。私
 云以之勘之人丸遇文武之聖代難及聖武之御代者也云云。
 袋中子云万葉身二卷云柳本朝臣在石見国臨死時自傷作

晉一首。

抄本
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

方於此處
論

此青乃葉卷土寄物陳
迴寄中二念友念毛金
津足榜木之山鳥尾之
亦此夜予或本款白

而此哥等藤原宮御宇天自三代之次蓋樂宮和銅元年靈龜元年秋九月歌等之有アリ云云。

足口不乃山鳥之尾乃
 垂尾之長ナキウ夜半ナトク一鴈
 宿トアリテ依ヨ新ニ又マタ新
 ナテ松送マツノミナト又マタ廣トテ氣
 久リ

愚案此後ハ元武乃親ノ一遊^ツモ^ル中^ニあ^リテ今文
武乃翁乃師範^トナ^リシタ今乃定^メル^{コト}アリ
徹^トク^キ物語云三月十八日^ト人^ヲ吃^ス乃^レ三日^ヲ着^セハ和^シ芳^ク終^ス

○又、青茂木ノトカ、
又ハ生茂木カ

事毎月十日又考乃之あり——長明の無明あり

予人前。彼よりハ吾隊と云ふ事

あ、雙乃ひどわ乃尾乃きり尾のあらくよまなふらんとおん

カノヒキナノ奇於イニハ
 トアレハ万葉二作者不計
 トル平ノノチナリ新千
 載ハ於イニ類ハ一トミテ
 タミテ是チラヒテ又人ハ
 ノ奇トセリ於イニハテ類
 ナルキ自ナリ此奇モテ

松 葉

送三題^上と云。家系下より。足川乃山石橋
物云。定家つれ至患^レ況^ハけしと云はあり。空に白久
ことと云々と斗ふて。山日來^ル定を引膝^{ひざ}乃形^{かたち}ふと云ふ。

祇玄肯と云ふと只此にあらざるを云ふ

山崎 素人

山縣氏公老仁佐室惠年申三和氣王及諸王寺賜山縣喜久下りて
元来別へ限久へ力云

來自邵小橋上之人山

部連ノ姓ヲ王ハリコラ

天武ノ朝ニ宿禰ナリ

人言聖王無時然

下リテ

儿哥万望三之

下勺万葉ニミシロニソフミノタカ
ニ雪ハアリタト云ニテ月ヲカキ

ト云ハ下ノ夕力子ニノ二モ三トナリ
正ニノ七セナルヘケレトモ白妙ノトナリ

此等ノテニハカキテ、
ツミテミツトナシニ
今モナホスアリ

少ト云フノモトアリシ、ノウ、トニ

カタキヲミルヘシコヒラハアサリニ出

大用ニカクシ

乃每テトクニシテ清見魚ハナハシ彈ハナハシ

守下云外ナリナテ其サタノ山

陰ヨリ東ニ出ル処カ田子浦ニ

卷之四

卷之四

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor discoloration and a dark, irregular stain along the right edge. A small, dark mark is visible near the top center of the page.

三

此乃藥三山哥宿祿毒人

皇不二作師知教

外エノウテエ折ぐとハ

シロニソ不ニノ高嶺ニ

ハ
フ
リ
シ
シ

18

7

庾亮卿

○
主
子

五

テハ、
ア
ア
海
白
ユ
フ
シ
ユ

花三波多子ワタ

軟政集
ア又之ノア

三ノ腹合ニ身トナテ

ヒラノ馬ノ花ヲ
あ

更

1745

玄旨と云ふこと只此に在りていふことなり
 作者部類云万葉同録藤原教灌引姓茂録云山邊
 宿祢赤人垂仁天皇之後也裔孫正志位上山邊大老人
 古今真名序云有山邊赤人者並和歌僊也古今序云
 作者部類云万葉同録藤原教灌引姓茂録云山邊
 宿祢赤人垂仁天皇之後也裔孫正志位上山邊大老人
 古今真名序云有山邊赤人者並和歌僊也古今序云

愚案、万葉集と考ふる。赤穴ハ身ノ執行の中ニ
山部宿禰赤人望不盡山歌一首ニ是以此又中六神
皇元年十月章紀伊国時作歌又天平六年三月章
干羅皮定時可求あり始の難歟の中へ入るやとの
うゝに交りて一八九と時代は……
そのうゝは時代不同なりありて時代の按は取れず
年譜にはあるより傳へを武の時の人々を記述する
たを升家左今按ふ上総国山部郡人也彼より
唐今よりあり云々依先都録しあり

古今を叙^ク歌^カうと云。万葉才に、雜^{サハ}奇^キなりすと云。
 俗^{ソコ}稱^{ショウ}赤人望^{セツネンゾウ}不盡^{フジン}山歌一首短歌長奇畧^{チヤウギリヤク}
 土乃^{ツノ}根^ネ雪^{ユキ}よりあるとあり。田^タ災^{アイ}浦^{ウラ}流^ル河^カ乃^ナ系^{ケイ}
 り。さる根^ネと聲^{セイ}と云ふ。吾^ガ心^{シン}を注^{チュウ}抄^{シャウ}云。田子浦乃そひ
 をまなくそれと眺^{トモ}みあきりあきり〜いねり及^{ヨビ}ね

皇極經世一書... 仲滿唐女... 朝衡日... 亦早... 罪衡日... 霜後夕紀... 卷

安倍仲磨

父祖ニシラス

御抄云孝元天皇皇子太成命 安部氏祖 後也 古傳云

勢大輔 船守子云 愚案文武天皇太皇元年誕生

宗祇云仲磨元明元正兩代乃人云 我々并榮雅古

今説云元正天皇御宇靈龜二年八月遣唐使大伴山

守乃船... 入唐云云 或説云多治比縣主遣唐

使... 入唐云 對仲磨學生云云云云云云云云

ふ... 愚案唐書列傳二百七朝臣仲滿易姓名朝衡云云

補闕云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云

仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云 仲磨云云



あふる原

古今蜀旅

詩

仲

物

て

ま

ま

仲

唐

遣

大

量

仲

唐

入

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

万十月

國ナリ

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

古今蜀旅

詩

仲

物

て

ま

ま

仲

唐

遣

大

量

仲

唐

入

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

唐

久しと安んずるに似たりもた目なりけるにまづうき
るよりとれども座を乃いりてあはれざるはたなるに
然らずとてあつたりとて朝夕なりけりけりけりけり
列々海をよわふとてさきさき東海月をそとてまてに
ぬきぬきぬき三笠山なりぬき月をみるにやけり
を法るにさきさき餘情なりけりけり物に牡丹にさきさき
月と明るに文料なりぬき他物なりけりけりけりけり
けりけりけりけり新撰隨想なりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

喜撰法師 或基泉

御抄云系圖等無所見云。佐々木高秀古今抄云喜撰撰
諸兄孫奈良唐子醍醐法師云。千載集序 修成の
乃傍喜撰といひあるに人皇の云とありけりけり

よはりてや師とありて武とにたりけるに
光孝天皇乃何物とありけりけりけりけり
居宇治山持密咒食本葉得仙道云
元亨の尺書に竊仙とありては趣あり人皇

長門守明和云喜撰の改由家云乃奥より
中へく宇治山の喜撰にけりけりけりけり
るに人皇の云とありけりけりけりけり

○わが座を乃いりてあはれざるはたなるに
古今雜下巻とありけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけり

應神紀大國標
山崎屋吉野河

乃て位はしるの義にすする常と云はるに之を翻
 して位はしるをわびて位はるゝと云ふ也。位はる云
 字は乃て位はるをわびて位はるゝと云ふ也。位はる
 宋祇云。位はるゝと云ふとある人より云ふと云
 乃て位はるゝと云ふとある人より云ふと云
 菴ハ王舎城觀心經之師注王舎城ハ是は華經序品にあり
 國王乃都なり其王乃失火勢一と云ふ王舎城を燒
 たり一と云ふは火難と云ふと云ふ王舎城と云ふは其
 乃て位はるゝと云ふとある人より云ふと云
 歸心王舎城五蘊と尺一と云ふ五蘊ハ是は色受想行識
 あり五蘊と云ふとある人より云ふと云
 亦文句は過去心生造現在五蘊會云云是ハ過去心生造

我々も一物を其因縁よりくせせりてとるなり生
 けし清淨なる去乃公けし其義をいせりて其義に
 せぬ淨名經より若其心淨即佛土淨とありはこれい
 ぬ撰の過去清淨なるよりつりたる五蘊をわかれ
 けし其乃庵とて撰かんとは其より淨なるをいふ
 公よりきこひし世よりくせりてとるなりこの心

小野小町

近江國滋賀郡小
野村に住こゝに古
今集小野貞衡ニタ
康秀臨臥上陵カセニ
文徳天皇ノ御世ニ又小
野ヲ鍾力所カ控ナト云々

古今月録分拾芳抄云出羽郡司女仁明時承和之化人也云
作者歌類親房古今抄亦同云御抄云或說云出羽郡司小野良
實女オチガメ亦常澄女ツチバシ三光院三光院市役當澄女云

郡司は国司より守り孫目あるごとく大國は郡より大領小領三
張主典よりあると郡司と云ふ

神中初云數十季至矣——好色之徒——乃本國死去故

屍在八十嶋 災云々 災難復同云

小町鶴體
上凡の云々
つるしあ
あめい

愚案江紀無明抄云々 業平小町 胸脯と云ふいふ云々
くハ下句と云ふ云々 業平と云ふ云々 親房卿と云ふ
子ありと云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ
放と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

徒然草云小野小町云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

愚案作云部類云或人云王造小町 藤村人云云 王造と云云

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

と云ふ云々 業平と云ふ云々 小町と云ふ

○カカハ

六曜朝十を世々ウキ
トヲ思フテテナカメセ
三々手ノヘニ

後指合々々テヨ身
アリ行ナカメニ人ノ
花毛数ナリ

○カカハ

右今々ハ何ナ何
ウアヒ世中ニ身
モサニ二物ナ

○カカハ

右今々ハ何ナ何
ウアヒ世中ニ身
モサニ二物ナ

○カカハ

右今々ハ何ナ何
ウアヒ世中ニ身
モサニ二物ナ

○カカハ

雅乃二位と云ふ人なき本幅と云ふ同じに云ふは所の
世の事と云ふは既述を習ひたり云ふは従と尊と云ふは
長明海通記云尊凡ハ延壽才四字なり故に云ひたり
と西宮川原と云ふと云ふは抄云延喜乃皇子と云ふ
甚是可哉古今よけ人なり云ひたり延喜乃帝ハ十三字
又尊位あり延壽五年より云ふ才二字あり云ふは
云々云々云々云々云々

並葉古今の世の中をいづくまでして風乃うへうよりさ
 をあかぬけのありし世をいふとも怪九乃うある哉古と
 今なるをいふは世に流るは世をいふとありてなり一解案
 ありてなり。又逢坂の西乃うあるなり延喜のありてなり。
 小町家集云。西乃うとていせりてけりてなり。今般
 里はわたり乃う空乃う心丸やありてなり。解もありてなり。
 是の解も小坂の西乃う空を流るをいふとてなり。西乃うの

るをまじふに於て此に仁に於て是れを以て

○
七

逢坂神記紀武内
宿祢坐持立之而
追之適遇逢坂故
号其处曰逢坂也

日本紀略
四年癸丑
江國相
延曆十

核利

文德堂鐫 天章元年

五十四庚寅和坂

是古昔之世也

連也入聲

金生入真經

久矣

わさのいしをゆきとわけてたまるこころぬしよふねは園
ほ樵^{サカキ}離一途返り園上^{ウツミ}庭家^{ニハヤ}代けたりと信ちまふより
人ともくこゝろほしくゆきと別はうとあり。ばあまはは肝
来よりそより不審也。遠坂園近江いふんち、信州公面八
林客^{リンカク}時來乃さあといふ心肝はお取りおそあひなりと由て
よくも。さあこれやめとは今お取と云られや。は自分
よ東へはものも加へゆきのそきたる茶まつぬえをまよ
ていさあひこころを別とくは又まかりとありとあり乃
園よりゆいには多く流るるよしあると下んと云ふ是れ
の心なり。げとゆきとくは流れるなり。肝は云ふとく
去乃葉^{ハナ}固より具果^ミ瓜^{ウリ}にくとけせよ生れ又けしの園より
ゆきと又まかりと生れとありと生つり死なけりといふ
生死輪廻と云ふは轉々といふ。生死出離と云ふは地獄鐵砲

乃乃六通了持回しつゝいふ小僧乃乃運送のふゆをやはら
るゝ橋廻りて死別れせむるなりと人々と記念せりといふ
まゝいふに依るなり

参議タカヲ篁

号小野篁

諡

野相公 享更名序云風流如野宰相云

小野姓紹運録云敏達天皇四代孫毛人臣云是也

御抄云敏達天皇六代孫陸奥公從五位下永見孫

参議從四位下岑守子也云一禪 御託云承和十

四年正月十二日任参議文德仁壽二年十二月十一日卒云

云四家河海抄云雲林院白毫院南有小野篁墓云

御抄云篁破軍星之化身也云云承譜云岑守行承河持

時敬白星化於壇上成童子走去岑守追于竹林而抱之

乃号篁云云元亨尺書云歟滿米居和易金剛山傳失

畧云臣野諫議篁展第公體篁又不測人也身列朝班

而遊政官云云東山亦道篁實達云云 曰通やと云。又

右大臣板原三守云云と云なりて 篁より人々と云るは

有朝文粹にあり。所記同本乃近利學校へ篁よりにて

て學生を教へり云と云へ又近仙巖へ篁の訓点といひ

わかれ原ハナハナと云ふと云へ人々は云ふ云云此より

古今群談。後改の事ありと云ふなりと云ふなりと云

のりといふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云

あり云云 誦地三年在テ兼七事は述サレテ奉任ニ給フ 文德天皇ノ仁壽二年十月参議

今廿四卷

云云 誦地三年在テ兼七事は述サレテ奉任ニ給フ 文德天皇ノ仁壽二年十月参議

云云 誦地三年在テ兼七事は述サレテ奉任ニ給フ 文德天皇ノ仁壽二年十月参議

云云 誦地三年在テ兼七事は述サレテ奉任ニ給フ 文德天皇ノ仁壽二年十月参議

云云 誦地三年在テ兼七事は述サレテ奉任ニ給フ 文德天皇ノ仁壽二年十月参議

云云 誦地三年在テ兼七事は述サレテ奉任ニ給フ 文德天皇ノ仁壽二年十月参議

云云 誦地三年在テ兼七事は述サレテ奉任ニ給フ 文德天皇ノ仁壽二年十月参議

御抄云桓武天皇正三位大納言良岑安也子也。
良岑姓延暦二年賜良岑朝臣姓云。榮雅託安也。
桓武の子也。云々因院在良岑嗣。云々其子云々
榮安云仁明の時方之事を云々云々云々云々云々

古今雜上
乙卯年
左傳馬牛虎之屬無曰第之先王之樂不以節石事
也故有五節一主五聲之節四六ノ聲ニ五聲ノ節アルニシテ
良卷ノ示反と
考

良岑宗貞

子ノ中宣防少納言
君卜司之タニナリ

くまをくぬへるふれとて母より人より決るにけり
といひ云。定家^{ノミ}勅物云。齊衡二年正月。四位因幡守云。
しゆまくんとはわかしゆへん。あふふ。ゆめ。侍人。さふあ
あふ。わかし。か。り。あふ。の。ひ。か。く。云。あふ。は。人。さふあ
や。あふ。さふ。たふ。し。あふ。別。い。い。さふ。人。さふ。い。さ
ね。侍。人。さふ。侍。成。つ。云。あふ。あふ。さふ。さふ。さふ。
あふ。向。い。い。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
侍。人。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
凡。受。領。さふ。二。任。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
は。さふ。人。さふ。一。個。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
く。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
人。被。上。郵。候。換。不。受。謝。令。推。不。去。い。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
より。今。い。平。し。出。氏。さふ。い。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。

とをくぬへるふれとて母より人より決るにけり
といひ云。定家^{ノミ}勅物云。齊衡二年正月。四位因幡守云。
しゆまくんとはわかしゆへん。あふふ。ゆめ。侍人。さふあ
あふ。わかし。か。り。あふ。の。ひ。か。く。云。あふ。は。人。さふあ
や。あふ。さふ。たふ。し。あふ。別。い。い。さふ。人。さふ。い。さ
ね。侍。人。さふ。さふ。侍。成。つ。云。あふ。あふ。さふ。さふ。さふ。
あふ。向。い。い。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
侍。人。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
凡。受。領。さふ。二。任。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
は。さふ。人。さふ。一。個。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
く。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
人。被。上。郵。候。換。不。受。謝。令。推。不。去。い。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
より。今。い。平。し。出。氏。さふ。い。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。

在原業平朝臣

在原氏五男仍号在原中將 亦兩齋翁 惟清抄
承業平朝臣也

行平^{ハナハタ}母弟五男也。天長三年^{ハナハタ}生。定家^{ノミ}伊勢物語
勅物云。元慶元年正月十五日。左近權中將。同四年五月。日
卒。年五十六。無明抄云。業平中將。家有三条。坊
門より西。高倉^{タカクラ}面は近く。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
乃。は。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
業平乃善提知^{サネツチ}像。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
三代實録云。業平^{ノミ}傳。自^{ヨリ}剛毅^{ガウキ}放縱^{ハツジョウ}不拘畧^{フコリヤク}無^{ナシ}戈学^{カガク}善作^{サナサツ}和
哥^{カガ}云。古今序云。在原乃業平。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。さふ。
伊勢物語奥云。或云。在原中將自記云。

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.]

藤原敏行朝臣

能書手人

大和天皇八年中臣連藤原敏行敏行天皇十三年其史云敏行敏行天皇十三年其史云敏行敏行天皇十三年其史云

敏行云南家祖武智磨六代孫也從五位上村田孫
 案使陸奥守富士磨子也母紀名虎女々々左中將石衛
 門督大内記云任從五位上云云拾芥敏行至延喜二年
 云云時卒也藤原姓姓氏錄云天智天皇八年始賜藤
 原氏云云

寛平元年藤原基経
 少子也此系
 歩平也此系
 新撰万葉集

藤原氏強弱録足更中臣氏を改め賜姓多氏至平
 等之云武智元南家房前北家宇合武家磨京家四家相分

ほ授身乃事以乃他云云葉平以時のまなりある
 伊勢物語云云云云○宇治松邊云云云云ひり
 といふ云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

○いふは藤原武而ア平云云云云
 まなりなりまなりまなりまなりまなりまなりまなり

古今通記 寛平の事
 蓮久院（蓮久寺）開元。寛平の末、八重子、（八重子）九年、
 寛平、八重子、（八重子）常乃后、（八重子）七条后（主上）温子なり。

何の何の岸より出づるは、
 長久やといふ人との序に
 記す。是るありて、
 るとわすかした。長久
 なもなきる自由にか
 及さんか、
 中より、

勢　後醍醐天皇所とあり、大和物見は伊勢乃所とあり
 伯耆云々眞夏四代孫大和守繼茂也此亦云伊勢
 守花原繼隆也云々伊賀家系云ハ序中の道明よりあ

皇業見わらふ事と云。大内息不^レは七条后滋子より其實を
 於^レ於抄之寛平法皇御息所と云。紹運録云行明親王母
 伊勢と云。伊勢大和物語より伊勢伊息所と云ことと云。伊
 人と伊息所と云。袋小女云能因法師系房の車乃伊
 といふてゆれあり。二条东旧蹟より伊といふ
 数町あり系房終る。同云能因法師伊勢御の妻
 乃及之と云。伊勢の墓も後醍醐天皇曾於^レ於^レ周回と云所
 乃といふ伊勢寺といふあり

何處より来るものなり。なるをあらわす。いせとて。うへよや
 新古今集一巻。照く。し。云。序あり。うへよ。ききなり。や
 八万の月夜歌。い。う。う。し。云。心。師。注。云。出。る。
 乃。若。と。云。る。故。け。く。い。ん。と。短。交。其。の。筆。乃

[illegible]

大底大底時心時心愁苦愁苦乾中乾中腸斷腸斷是秋是秋天白天白

菅家

菅原綱太政大臣

御抄云天穗日命天照太神才二皇子六代孫世廣原清
乙孫參議從三位是善子也母伴氏云云系局云永和十
二年己丑誕生貞觀十二年對策及第字多而侍讀
昌泰二年二月十四日任右大臣元亨丁巳云昌泰四
年正月丁日因左候射藤時平之誤左遷太宰府都
督云云系局云延喜三年二月丁巳日於配所薨云云
九代孫平守府安樂寺云云根源云天曆元年七月
詔宜ありて右近馬場丁改とあり云云

昌泰二年二月十四日任右大臣。元亨丁巳云云。昌泰四年正月十日因左僕射藤時平之諫、左遷太宰府都督。不系局云云。喜三年二月廿九日於配所薨。六十
葬于府安樂寺。公之根源云天曆元年七月
詔宣ありて右近馬場より召りし云云。

龍宜

一系院正曆四年

御石高辻小西

五條坊門北町西

愚案より、元和元年、神智大僧より、終り

又云、菅原院、勅解、由小路、南島、凡、西一町。菅原大僧、居
所、或云、參議是善家也。云、御述作の物、あり、

菅原集、詩文、菅原文草、菅原後集、菅原府、詩文

菅原万景、詩丹、文德實錄、諸儒、大、國史、類聚、二、百、卷

又、選文集等、乃、五、菅原、乃、は、もの、り、と、

菅原文草、才、一、奇、衡、三年、し、亥、于、時、年、十一

才、一、月、夜、見、梅、華、と、云、と、月、輝、如、晴、雪、梅、華、似、照、星

可、憐、金、鏡、轉、庭、上、玉、房、馨、又、天、安、二年、于、時、而、臘、月

独、興、と、詩、氷、封、氷、面、圓、無、浪、雪、照、林、頭、見、有、華、乃、有、あり

い、う、朗、詠、と、あり、元、慶、六年、南、海、四、の、使、者、来、朝、と

て、菅原、乃、は、と、云、白、樂、天、の、凡、あり、と、い、う、と、

菅原、乃、は、と、云、菅原、の、武、乃、中、は、大、長、と、い、う、と、

乃、云、と、い、う、と、い、う、と、の、法、と、い、う、と、い、う、と、

菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、

抄、云、天、德、日、命、十、四、世、乃、孫、野、見、向、祢、密、仁

天皇、御、宇、嬬、土、師、姓、十、世、古、人、天、平、元、年、六

月、廿、五、日、改、姓、菅、原、姓、

古人、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、

菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、

古今、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、

向、山、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、

菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、

累、代、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、

乃、向、山、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、

乃、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、

乃、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、

乃、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、

乃、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、菅原、乃、は、と、云、

朱雀院、年、多、上
皇、乃、は、御、年、多、上
昌、泰、元、年、十、月、定
の、御、年、多、上、御、年、多、上
後、乃、は、御、年、多、上、御、年、多、上

手、向、山、乃、は、御、年、多、上、御、年、多、上
王、駐、馬、山、乃、は、御、年、多、上、御、年、多、上
乃、乃、は、御、年、多、上、御、年、多、上、御、年、多、上
乃、乃、は、御、年、多、上、御、年、多、上、御、年、多、上

[illegible]

壬生忠峯

古今證名一也

先祖不詳
府生フナモト元忠タケノブ衛子。

作部類

古今亭右馬守石生トアリ

此奇昔三子逢天別

從五位下 宇紀子云云。抄云。和泉大將定國隨身云云。

其の拙さう人に逢て

大和物語

古今序右衛門府生云。近衛番長なり。

これに
は

祖哥ニチヲモシマシバリナリ。患ニ寄リ。

千俸汝乃云云。先師出而刺史叙古今。奇以自歸云云。土易刺史之贊之也。云云。云云。貴之云云。師云云。

わろあふれにまじくみ
別う曉うらうに物をば

古今五題上之三
御批云建無實定之搜

素瑶如
は不逢啼
立とあり
曉ぞろろ
は柔糖

説みけり云々。其の意は、乃と入るなり。

心法にうゝも人々をけりてとてぬれぬい

せんといふ別は折上を唯乃月の夜と海を添ふ

免に^して^しあ^りび^別より^曉が^うも^物より^{なり}る

上平。所從云。大經從之。一也。云。此亦一。

とりて乃孫をきくひなれとのかたり。古今集巻六

かのうと今
 ろうと二五
 かのうと二五
 ろうと二五
 かのうと二五

[illegible]

平氣盛

赤松子先生

華蓋王
 小稱云光孝二皇乃唐中興雅王孫氣爲行乃子也
 從五位下駿河守云之大和御内一人越前持也云云
 曰擬某一人云盛王云云袋中云云盛王以王女爲

大君天曆曰之歸本姓云云在保赤赤賢父之

母の心とていふまじき
 ちがひなき物なりとて人の心

[illegible]

第一 是より自余ハ、前、後、員とハ不執、

壬生忠見

家集に能安伊予播磨国と云ふ所、いふれ、國に、

建武二年、内、侍、に、
父、建武、二年、奉、
あつ、に、い、ふ、つ、り、す、
い、の、ま、の、ゆ、と、
い、の、ま、の、ゆ、と、
い、の、ま、の、ゆ、と、

中、所、云、本、名、忠、實、忠、孝、男、云、天、德、二、年、任、
殿、云、袋、中、子、云、忠、見、童、名、タ、ビ、云、又、云、忠、見、
乃、何、日、裏、より、召、あり、云、家、物、而、難、系、之、由、申、
了、何、馬、了、家、て、可、系、之、由、有、御、定、仍、進、此、歌、
何、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
お、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、

か、き、ハ、
未、時、ま、
い、君、他、
裕、子、マ、リ、

○ 忠、見、云、わ、が、名、ち、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
於、是、云、一、中、に、云、居、所、何、時、云、云、云、
袋、中、子、云、忠、見、童、名、タ、ビ、云、又、云、忠、見、
有、初、被、召、上、米、雀、門、曲、殿、宿、も、何、々、ハ、家、米、の、ま、り、
御、乃、小、袴、衣、と、今、一、時、に、忠、見、云、

云、師、ハ、深、意、父、孫、
下、野、寺、殿、子、云、
順、家、集、二、天、府、五、
年、始、テ、大、和、歌、撰、
フ、タ、タ、タ、タ、タ、タ、
ヒ、ト、タ、タ、タ、タ、タ、
ナ、リ、タ、タ、タ、タ、タ、
何、内、様、清、厚、人、師、

日、年、三、月、三、
日、年、三、月、三、

○ 清原元輔

は、清、原、元、輔、大、和、歌、撰、五、人、一、人、也、

文、作、り、
ト、ミ、ハ、
三、三、三、三、三、
五、五、五、五、五、
九、九、九、九、九、

於、是、云、一、中、に、云、居、所、何、時、云、云、云、
乃、何、日、裏、より、召、あり、云、家、物、而、難、系、之、由、申、
了、何、馬、了、家、て、可、系、之、由、有、御、定、仍、進、此、歌、
何、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
お、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、
忠、見、云、わ、が、名、ち、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
於、是、云、一、中、に、云、居、所、何、時、云、云、云、
袋、中、子、云、忠、見、童、名、タ、ビ、云、又、云、忠、見、
有、初、被、召、上、米、雀、門、曲、殿、宿、も、何、々、ハ、家、米、の、ま、り、
御、乃、小、袴、衣、と、今、一、時、に、忠、見、云、

其不可堪乎
其後之院
ト思ふ所あり
休ム所あり

其不可堪乎 其後之院
父孫取患子々を於芥之永祿二年六月卒七十三
八雲市物之松葉五人懸ちりといふ也彼左
今乃四人なり云々以親宣元備をそ代わん
と云ふべし奇人なりき

○

ちきりさき明りそ袖をさかりけい来る松の枝をさきハ

ほねまゝにさきまゝにさきまゝに

さきまゝにさきまゝにさきまゝに

さきまゝにさきまゝにさきまゝに

さきまゝにさきまゝにさきまゝに

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏

源氏

さきまゝにさきまゝにさきまゝに

さきまゝにさきまゝにさきまゝに

さきまゝにさきまゝにさきまゝに

さきまゝにさきまゝにさきまゝに

さきまゝにさきまゝにさきまゝに

さきまゝにさきまゝにさきまゝに

さきまゝにさきまゝにさきまゝに

さきまゝにさきまゝにさきまゝに

さきまゝにさきまゝにさきまゝに

○
松中納言教忠

其の昭宣云 孫平院在太臣時平之三男母

筑前守在原棟梁女教忠母始為大納言因經之

妻後嫁時平之生教忠仍實因經子也

其案今昔物語一時事因經乃其子一婦妻あり

号松平内云

乃あれちみいしといひ恨しむるも。東常澤云一
旦乃るうううううううう。曲うう。西の中ううううの
あうううううううう。うううう。うううう。うううう。
うううううううう。うううう。うううう。うううう。
断破うう。うう。断破うう。うう。断破うう。うう。断破うう。
心うううう。うう。心うううう。うう。心うううう。うう。
恨うううう。うう。恨うううう。うう。恨うううう。うう。
ぬううう。うう。ぬううう。うう。ぬううう。うう。
ひううう。うう。ひううう。うう。ひううう。うう。
うううう。うう。うううう。うう。うううう。うう。
うううう。うう。うううう。うう。うううう。うう。

○謙徳公

号伊尹公 於建一系後政云

小物云貞信云孫九条右弟相師相公男也母武蔵

守藤經邦女号夢云云系譜云天禄元年正月廿七日

任右大臣同年十月廿日攝政榮華物語九月十日云同日二年

十二月二日大政大臣同日正二位同月聽牛車同三年

月以後煩惡唐藏膳不寧十月四日遣藏人頭榮華

里牙賜度者十八人同廿一日依病上表辭攝政官復

同廿二日停攝政餘官如元十一月一日薨四十九一日過天

安寺五日葬彼寺良邊十日詔遣大納言正三位兼行

陸奥出羽按察使源朝臣雅信參議正四位下行左大守

兼式部大輔倫前推守源保光里牙贈正一位封參河

國爲參河公諡曰謙徳公云云小物云云云後醍醐

云云仁壽人云云將云云乃云云也謙徳公

諡号也大納言及乃云云榮云云人必云云

一國封乃云云乃云云乃云云乃云云乃云云

神皇正統記云云

